

総務常任委員会

(令和3年3月30日)

○ 萩須智之委員長

では、ネット中継を再開していただきます。

所管事務調査といたしまして、高校生議会の意見書（複合災害対策委員会）についてを議題といたします。

高校生議会から寄せられました提言等の内容が非常に有効なものが多く、この委員会でぜひ審議して、中身を確認させていただき、今後の議会に反映させていただこうという観点から、今回、所管事務調査の対象とさせていただきました。

資料は、10休会中（3月～5月）の04総務常任委員会内の001高校生議会意見書です。

あらかじめ配信させていただいておりますので、この内容につきましてのご意見を賜りたいと思います。

ご意見のある方は挙手にてご発言願います。

○ 樋口博己委員

まず、複合災害対策委員会ということで、高校生の皆さんから貴重な意見をいただいておりますけれども、その中で今、非常に皆さん心配されている感染症のところで、感染症が流行する中での避難所運営ということで、2行目の十分な数の保健師の確保に努めるとともに、専門的知見に基づいて分かりやすい避難所運営ガイドラインを整備しというようなことであるんですけど、その後も具体的に様々、この保健師の重要性というのは言っているとおるんですけども。

現在、危機管理室内に保健師の方の配置があるのかなのか、兼務でおみえになるのか。ちょっとその辺、新年度のことを聞くとあれかも分かりませんが、現時点としてあるのかなのか、ちょっと確認したいです。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤です。

現時点も、来年度もですけれども、保健師の兼務職員、保健師の職員は危機管理室にはいないということでございます。

以上です。

○ 樋口博己委員

新型コロナウイルス対策の総括的な責任を担う危機管理室ですので、総括的に言えば、その中に保健所もあるので、そういう保健師、専門職の方のいろんな意見なりは反映されると思いますけれども。

今後、危機管理室の拡充という観点においては、専門職を1人配置というのは難しいかも分かりませんが、危機管理室に兼務職員とか、すぐ実行できないと思いますけど、ちょっと今後の課題として、令和4年度に向けては、少なくとも兼務職員をしっかりと配置いただいて、責任を明確にさせていただきたいなとも思います。

新型コロナウイルス感染症対策室について、新年度のことを言ってもいいですか。

○ 荻須智之委員長

どうぞ。

○ 樋口博己委員

新年度は、保健師が兼務なのか配置なのか分かりませんが、何かそんなような配置の情報もお聞きしておりますので、その辺しっかりと今後対応いただきたいなと思いますけれども。

今後の保健師との連携の考え方だけ、ちょっと教えていただけますか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

避難所の運営ガイドラインを令和2年度につくらせていただきました。このときも、内容については保健所の保健師に監修もしていただきながら作成をいたしました。実際に、総務常任委員会委員にもお越しいただきましたけれども、浜田地区の防災訓練にも、保健所の意見を少し取り入れながらガイドラインをつくってまいりました。今後こういった形で連携を取っていきたいなというふうに思っています。

本当の長期の避難のときには、DHEATという応援部隊がやってくるというのもお聞きをしていますので、こういった方々に感染予防のところを見ていただくのかなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○ 樋口博己委員

あと、避難所を開設するに当たっては、基本的に地元在住の市の職員の方が避難所の立ち上げをされると思うんですけど、そこには保健師の方が、意識的にそういう配置になっていることってあるんですかね。基本的に、地元にたまたま保健師の方が見えたら配置されるんでしょうけど、そういった考え方はあるんでしょうか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

避難所を開設する市の職員は、避難所に近い職員であったりとか、そういうのを選定しているところなんですけれども、保健師さんがその職員の中に入っているかという、ちょっと確認はしていないですけれども、多分全てには入っていないと思っています。

地域の中には、その地区の方で看護師さんであったりとか、そういう方を人選されて、人材リストをつくってみえる地区もありますので、そういった対応をしてもらっているかなというふうに考えています。

以上です。

○ 萩須智之委員長

ちょっと待ってくださいね。

例えば、たくさん保健師の資格を持たれた行政職の方も見えるんですけど、その方たちが避難所に行くこともないということでしょうか。どうなんでしょう。それは可能性があるんでしょうか。

今の職員の中に保健師資格を持った方がみえるのではないかなと思って、ただ、現役の保健師さんの職務をふだんやっていらっしゃるわけじゃないので、保健師としての本来のアドバイスができるかどうかは分かりませんが、職員の中に結構いらっしゃいますよね、この建物の中にも。その方たちもどこかへは行かれるわけですよね。どうなんでしょう。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室の伊藤です。

保健師の資格をお持ちの職員はみえると思います。みえると思いますけれども、その職員が開設、避難所に行く職員に当たっているかどうかまで、ちょっと詳しく確認をしてごさいませんので、今ちょっとこの場では分からないところです。

以上です。

○ 萩須智之委員長

結構です。

○ 樋口博己委員

現状、そうだと思いますけれども、委員長おっしゃっていただいたとおり、実質開設に行ける方、本庁での実務、業務がある方、それぞれあると思いますけど、避難所開設に行かれる方で、そういう保健師なのかどうなのか、そういった視点もちょっと注意いただいて、例えば開設時に、A地区で開設メンバーになっていても、一旦開設が立ち上がった時点で、隣接する地域のことも少し避難所開設を保健師の視点でチェックに行くとか、そういう連携ができるかどうか、メンバーの構成もあると思いますので、ちょっとそういう視点も今後検討いただきたいなと思います。これは要望をさせていただきます。

以上です。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

これ、すごくいい提言だと思いました。医療関係者は、もう医療に従事して手いっぱいだと思いますので、こういうところへ配置できる保健師の方が見えたらというのは、確かに言われてみればそのとおりということでしたので、ぜひご検討いただきたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

○ 森川 慎委員

意見書の中の2番のところを、私、特に聞きたいんですけど、避難所をどうしていこうかというお話なんですけど、高校生の皆さんからは、ホテルへの避難とか車中泊、テント泊というようなことが提案をされているんですけど、この辺というのは、今の段階で、四日

市市としては対応できることはあるんですかね。仕組みとして存在するのかな。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤です。

2番のところのホテルへの避難でありますとか、車中泊、テント泊といった手法というのが書かれています。コロナ対応でのホテルというのは、今のところ、少し動き出しているものの車中泊については進めていこうかというところで、今、場所の選定であるとかで動き出しているところでございます。

そういったところであるとか、テント泊のところも、場所を提供できるというところと協定を結んだりとかして、ここもやっぺいこうかというふうに動き出しているところでございますので、現状はそんな感じです。

以上です。

○ 森川 慎委員

コロナ対応でホテルと言われたんですけど、どういう意味ですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤です。

県がホテルの関係を、ここを使えるのではなかろうかという照会をいただいています。ただ、コロナ対策ではなくて、私ども、普通の避難のときの福祉避難所であるという使い方、これができないかなというふうに今模索をしているところでございますので、コロナ対策に限定という形ではない形を模索しています。

以上です。

○ 森川 慎委員

それでも、現状はそれぞれ検討中ということで、実際にどうするかというところまでは行っていないんだと。

○ 萩須智之委員長

ちょっと待ってくださいね。

そこでなんですけど、ホテルの借り上げは県の仕事ということで、四日市市はしていません。今、室長が言われた福祉避難所というのは、県はそこまでは介入されていないとなると、市が独自にホテルと交渉されて、協定をつくるとかというのが必要ですし、今回のこの提案は、市が独自に避難所の中で、想定されているのは、例えば障害を持たれた方とか、一緒におられない方、精神の障害のある方とかを収容するのにどうかというふうにも受け取りましたので、これは非常に重要なことかなと思いました。

ということで、ちょっと口挟みましたが、森川委員、続けてどうぞ。

○ 森川 慎委員

今ってどうしても災害が起きると、体育館に、いわゆるよくニュースなんかで出されるみたいな形で、いろいろプライバシーの話であるとかという観点もいろいろ指摘あるんですけど、ホテルなんかというのは、大きな災害が起きたらきつともう一つも埋まらないような状況というのが幾つも出てくるのかなと思って、そういう時に市として協定を結んでおいて、有事の際にはもうフロアごと借り上げるとか、そういう対応も十分できるのかなと思うし、海外であるとか、あるいは先進的な自治体では、そういう取組も進んでいると思いますので、ぜひこの辺も検討していただきたいなと思っています。

震災の関連死なんかも結構出ていますから、やっぱり避難中に亡くなってしまうという方もたくさん出ているので、そういうのを避けるためにも、いろんな方法を検討していただきたいなということを思います。

それと、車中泊とかテント泊の場所を考えているんだというようなお答えもいただいたんですが、寺方町に整備された総合防災拠点はどう活用されるんですか、有事の際は。物資受入れはそうですけど。

総合防災拠点のところで、あそこにプレハブを建てたりとかというような議論もあったかと思うんですけど、あの辺は、この車中泊、テント泊というのは想定はできていないんですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

総合防災拠点は、やっぱり大災害時のための一時、応援部隊の集結拠点であったりとか、市町関係の物資を受け入れる拠点、その後には、応急仮設住宅の建設地であったりとか、

そういうことを想定しておりまして、ただ、短期の車中避難に使えないわけではないので、ほかの場所での検討も含めて、これから検討していこうかなというところですので、全く候補に今入っていないわけではございません。

以上です。

○ 森川 慎委員

いろいろ検討はしていただいているんですが、何かいつまでにこれぐらい決めたいとかって、そういう目途はあるんですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室の伊藤です。

来年度中には少しビジョンというか、はっきりしたものをお見せできたらなと思っていますので、ほかの風水害でありますとか、そんなものの避難も含めてになりますけれども、検討していきたいと思っています。

以上です。

○ 萩須智之委員長

総合防災拠点には、施設がないんですよね。だから、トイレとかがもしあると、仮設住宅においてもいいのかなとも思うんですけどね。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤です。

総合防災拠点には、マンホールトイレを五つ準備はさせてもらっています。今、上物としては、1基だけがついている状態ですけども、5基つく予定になっていますので、災害時のときには使えるといったものでございます。

以上です。

○ 萩須智之委員長

五つに増えるわけですね。

○ 伊藤危機管理室長

はい。

○ 森川 慎委員

本当に今、議会なんかでも、スフィア基準とか言われる議員さんも増えてきて、世界的にもそういう流れってあって、やっぱり日本のそういう避難所とか避難対策というのは、大分世界の中でも取り残されてるのかなって思います。

当然、避難してきて、そこでいろいろ段ボールベッドを配備してもらったり、パーティションとかはしてはもらっているんですけど、やっぱり人間ですから、なかなかそういうのでだけでは、お子さんも見えたりお年寄りも見えたりという中で、なかなか過ごしていくのも大変なのかなということも思いますので、来年度中に考えていただけるというお話なので、ぜひホテルとの提携とかも含めて、いろいろ本当に何かあったときに安心できるような避難所運営ができるような形をぜひ、それこそ先進的に模索をしていただきたいなと思いますので、高校生の方でもこうやって言っていただけて大変参考になると思うので、ぜひお願いします。終わります。

○ 萩須智之委員長

関連で。どうぞ。

○ 村山繁生委員

ちょっと確認したいんですけども、今、テント泊とか車中泊を検討中ということですけども、四日市市の指定避難所になっています小中学校のグラウンドには、車の乗り入れとか、それはすぐできるようになっておるんですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

先ほどから言っている車中泊の場所の候補地でございますけれども、小中学校のグラウンドを想定しております。ただ、全てが全て入れるかというのと、全てが入れないで、59校中の58校は入れるんですけど、まだ1校ちょっと入れないところがありますので、ここについては、今後、工事なりの検討をしていこうかなというところでございます。

以上です。

○ 村山繁生委員

検討していこうかなという、現在は災害時でもまだ車は入れないという状況で、これから検討するということなんですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

物理的にはオーケーになっているところなんでございますけれども、まだちょっと詰め切れていないところがありますので、これから詰めていく作業を来年度していこうかなというところでございます。

以上です。

○ 村山繁生委員

それは分かりました。それならしっかりとその辺詰めてください。

○ 笹岡秀太郎委員

同じような質問になって申し訳ないけど、新しく整備できた運動場なんか、スプリンクラーとか様々なものが地中に埋まって、これ、車、入らないでくださいという指示を受けるんだけど、これ、大丈夫ですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

その辺、スプリンクラーが入っている学校が多数あると思っています。荷重の話でありますとか、エリアの話であるとか、その辺もこれから詰めていく話になりますので、基本的な、今も指定避難場所にはなっていますので、車が入れるかどうか、どこに入れていくかというのはこれから詰めていきたいと思っています。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

高校生でもそれぐらいのことを考えておるので、早めに対応したってもらわんといかんなど。

それと、ホテルなんやけど、これ、個人的な話で、放送に乗せてええのかちょっとよう分からんけど、個人で、身寄りがないからホテル予約してあるんやわという市民は何人がいらっしゃいますよ。

もう既にそういう個人の取組として進んでいる中で、行政としてどう取り組むかというあたりの視点で、一度しっかりと早く考えやんと、もう既に市民がやっている、それに何か援助せえとか、そんなことは言っていないので、せっかくある、いわゆる宿泊施設をどう災害時に生かしていくかというあたりは、例えば、そのホテルのそれぞれの機能とか、あるいはそういう災害時にね、個人でお約束していらっしゃる方も何人がいらっしゃるのではないかという気もするので、どういう形で予約しているかというのは私は知りませんよ。ただ、聞いた方には、台風時に、身寄りがないのでご迷惑かけるわけにいかんから、避難場所に行く前に、事前にホテルを予約してあるんだと、こういうことでした。

ですから、やっぱりちょっとその辺の視点も含めてね、やっぱりこの高校生の指摘、ちょっと一考するべきやと思っていますので、ぜひ充実してしっかりと研究していただければなというようなことを思っています。

以上です。

○ 森川 慎委員

もう一個。

テント泊も出ているんですけど、テントって何か配備できる算段みたいなのはあるんですかね。テント泊は考えていないですか。どうですか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

テント泊につきましては、自助のところで、避難する際にお持ちいただけるのが一番いいのかなとは思っていますけれども、行政側のほうで、避難所の中のパーティションテントであるとか、仕切りについては、これから備蓄で手配をしてまいりますけれども、屋外のテントについては、やっぱり自助のところでお持ちいただく形かなというふうに今考えているところです。

以上です。

○ 森川 慎委員

災害時にテントを運ぶのは多分無理なので、テント泊を考えるのであればやっぱり備え付けるとか、それこそ段ボールの会社みたいな形で協定を結んで、有事には100台用意してくださいとか、何かそういうのがやっぱりないと難しいのかなと思います。

これ、どこかで、イタリアかどこかは、もう災害が起きると、ぶわっと国から何基もテントを運んでもらって、そこで家族が過ごして避難するみたいな形をもう取れているという話で、国の力も十分要るんだと思うんですが、やっぱりその辺もテント泊できるところを考えてもらった次は、やっぱりどうやってテントを配備していこうとか、そういうところまで行ってもらわないとちょっと有効ではないのかなと思いますので、またこの辺も考えてください。お願いします。終わります。

○ 樋口博己委員

今の森川委員のテントの話なんですけど、どうなんですかね、市内で各地区の社協とか、ああいうところでテントを持っていたりしませんかね。僕の地元の羽津地区は、羽津地区の青少年育成協議会でテントを30個持っておるんです。もう昔、地区で子供たちがテントでキャンプをやっていたので、その名残で1回か2回ぐらいしか使っていないテントが、倉庫に山積みしてあるんです。

ちょっと何かそんな調査も声かけして、もしあれば、使えるかどうかの確認ぐらいはしていただいて、市で一括で管理せんでも、それぞれ既に持っておるところをそのまま持っておってくださいという話でいけるのかなと思いますので、ちょっとそんな呼びかけも一度していただいたらどうかなと思います。

あと、テント泊とか車中泊をした場合に、物資をどう届けるかで、例えば、駐車場で車中泊ができるような協定を結んでいなかったですかね。そういった場合、どこが車中泊の管理をするのかとかのその辺の考え方は整理されておるんでしょうかね。まだですかね。ちょっと今後の見通しだけ教えていただけますか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

車中泊であったりとか、ショッピングモールの駐車場であるようなところを協定を結んでいるところはございます。そこへの物資の供給については、これも課題でありまして、どうやって連絡を取るかとか、そこはこれから掘り下げて詰めていかなあかんとところでございますので、取りあえず難を逃れるというところで今動いていますけれども、その後は、どうやって物資を届けるというのは、これから今後考えていきたいと思っています。

以上です。

○ 樋口博己委員

ショッピングセンターの広い駐車場だったら、車中泊の協定にとどまらずに、車中泊した方に対して、一時的に店舗にある食料品なんかも供給いただけるようなことも、少し今後協議いただきたいなと思います。あるショッピングセンターで、例えば300台泊まっています。そこに家族もおりますから500人いるとすると、その店舗にある在庫の分だけ、まずはそこに供給いただいて、あと、全国的ないろいろな物資の供給となりますので、ちょっとそんなことも検討いただきたいなと思います。

そういうショッピングセンターの駐車場であれば、ショッピングセンターの中で電気が通っておれば、いろんなそこで、例えば1か所、管理ブースみたいなものを設置させていただき協定とか、一時的に管理するところをつくらせていただくとか、そんなことも含めて今後協議いただきたいなと思います。

テントを張るのは下が土のところですので、そういう駐車場には無理ですので、やっぱりそういう小中学校の運動場、また公園、グラウンドになりますので、こういったところは、どうしてもそういう一時的に物資の供給とか、管理する電源とかも、ちょっと大変かなと思いますので。

来年度から地区市民センターに電気自動車順次配備というふうな予算になっていますけど、そんなのも活用して、移動のそういう地域というか、テント村というか、その移動拠点をつくるか、そんなこともちょっと今後検討いただきたいなと思います。それについて、お考えあれば教えていただきたいと思います。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室の伊藤でございます。

樋口委員から大変貴重なご意見いただきました。車中泊で、その後の電源の確保であっ

たりとか、ライフラインのところは、これから考えていく形、やっぱり先ほども言いましたように、今は難を逃れる場所をどこに持っていくかの、コロナ禍の中でどこへ逃がすかというスキームを今、いろんな手を打って考えているところでございます。

そこには、やっぱり後のライフライン、それから生活に関わるものの話が出てまいりますので、難を逃れた後の、特にトイレの問題はどうしてもついてまいりますので、そこも含めて今ちょっと検討をしているところでございますので、しっかりとやっていきたいと思っています。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

今に関連して。

そうするとき、市営駐車場なんかものすごくええよね。公用車がいっぱい止まっておって、それ活用できて、トイレがあると。この視点はレンタカー屋さんの置いてある車を活用したらどうかという提案やけど、同じ視点でいけば、ここの立体駐車場も、雨は当たらんし、トイレはあるし。もちろん緊急時やでいろんな車が動くかも分からんけれども、動かない車も何台かあるでしょう。そういう活用もできる可能性もあるので、これを応用編としてちょっとまた考えてください。

○ 樋口博己委員

さっきの続きで。

最後に、市民の皆さんに、電気自動車をお持ちの方に協力の協定なんかも検討いただくんだと思いますので、そういう車の活用法も具体的に、そういう出先の拠点なんかにも行って電源供給してもらおうということも、そんなことも含めて、今後、しっかり協議いただきたいなと思います。

○ 森川 慎委員

一つ確認をさせていただきます。

何か有事が起きた際に、避難所を運営するみたいになったときに、国とか県から、何て言ったらええんか。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員

物資なりとか、今確定でこれだけは確保できるとか、こういうものは必ず送られてくるというのがどういうものなのかというのが分かれば、お伺いしてみたいんですけど。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

国、それから県からプッシュ式で送られてくる8品目というのがございます。ちょっと今すぐ出てこないんですけど、毛布であったり、水であったり、食料であったり、おむつであったりといった8品目というのがございまして、一応県からプッシュ式で来るのが3日後、国から4日後からプッシュ式で来ると。そこからは必要に応じて、1週間するとブル式に変わってまいりまして、必要なもの、こちらに不足しているものがやってくるといったスキームになってございます。

以上です。

○ 森川 慎委員

避難所運営の、例えばパーティションとかベッドとか、こういうところはもう自分で用意しなければならぬんですかね。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

最初、ちょっと申し遅れました。大きな災害が起きたときは、市のほうからプッシュ式で各指定避難所に持っていく。その中にパーティション、テントであったりとか、一部の中には、今年度買わせていただきました段ボールベッドであったりとかというものがございます。そこで不足するものについては、協定で結んでいる業者にお問い合わせをされるとかという形でございます。

以上です。

○ 森川 慎委員

そうすると、やっぱり一番最初は、四日市市としてできるだけの備えをしておかないと駄目だということですね。3日、4日は耐え切らないと駄目なので。

○ 笹岡秀太郎委員

最終ページのところなんですけれども、自治体間の協力体制の構築についてという、ここはもう平素からきちんと取り組んでもいただいているし、しっかりとした体制もできておるとは思いますが、いわゆる高校生にそこまで周知がしていないから、こういう意見が出るのかなという気がするんですが、例えば高校生じゃなくて、市内の小中学生にどうしても防災教育という視点で、どのような内容で子供たちを防災教育しておるのかというのは少し疑問なんですけど、この辺はどうなんですか。ここで聞いても無理かも分からんけど、でも、ここが考えて指示を出さんことには、教育委員会も動けないんだというふうに思うので、ちょっとその辺の視点を教えてもらえませんか。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

小中学生の教育につきましては、消防本部と協力しながら、小学校には防火教室、中学校には防災教室といった形で教育のほうをさせてもらっているところでございます。

その内容につきましては、やはり自分たちの命は自分たちで守る、自分で守るんだと、共助のところは共助で守るんだといったところの基本的なところを今学習していただいているところですので、自治体間の協力体制でありますとか、細かいところまでは、時間的にもなかなかちょっと、カリキュラム的にちょっと難しいかなと思っていますけれども、私どもの市のホームページとか、そういったところでは、もう少し啓発をしていかなあかんのかなというふうに感じましたので、そこではちょっと努力をさせてもらおうかなと思います。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

時間的な余裕がないということであれば、例えば小中学生向けの冊子とか、そういうところにしっかりと充実させていくべきかなという気もするので、ここに出ておる意見は高校生ですから、できたら県とも協力してね、高校生の皆さんにもそういうあたりの施策が

確認できるように充実していただければなというふうなことを思います。意見として。

以上です。

○ 森川 慎委員

最後に、これ、高校生の方から出たので、危機管理監として受け止めとか、今後のどんな参考にしていくかというところだけちょっと確認だけしたいなと思いますけど。

○ 服部危機管理監

危機管理監、服部でございます。

若い方からのご意見をいただきました。どちらかというところ、危機管理意識を高めていただくターゲットにすべき世代であるというふうにご考えております。そういった世代からの意見ですので、十分に反映できるところは反映して、さらに防災力の強化に努めていきたいというふうにご考えてございます。

以上です。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

最後に1点だけ、この学校教育の再開時期とかという言及があると、これももう教育委員会だと思っておりますので、また、その点だけアピールしておいていただければと思います。全くそういうのが議論されていませんので。

ということで、ほかにご意見はいかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

では、この程度に収めさせていただきます。

これにて所管事務調査を終了させていただきます。お疲れさまでした。

11 : 39 閉議